

演題名：トンガ王国の障害者施設における 2009 年の歯科医療ボランティア活動ー 2009 年ー

発表者の氏名：

○ 遠藤眞美^{1, 2, 3)} ・ 竹内麗理^{3, 4)} ・ 河村康二^{3, 5)} ・ 河村サユリ^{3, 5)} ・ 田口千恵子^{3, 6)} ・
小林清吾^{3, 6)}

所属：

- 1) 九州歯科大学学生体機能制御学講座 摂食機能リハビリテーション学分野
- 2) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
- 3) 南太平洋医療隊
- 4) 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座
- 5) カワムラ歯科医院
- 6) 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座

本文：

【目的】

南太平洋医療隊は、2005 年から障害児・者施設での活動を開始した。本活動は施設利用者が口腔領域に関する保健活動や医療を円滑に受けられるように施設利用者の健康支援である。今回、障害者施設における 2009 年の現地活動報告および現在までの本活動について考察する。

【方法】

対象はトンガ本島の障害児・者を対象とした 2 施設である。1 施設目は発達障害児・者と聴覚障害児・者対象の通園施設、2 施設目は主に身体障害者の入所施設である。

2009 年の本活動は施設利用者の歯科健診、口腔ケアに関する支援、食事に関する支援、利用者、介護者および関連職種に対する知識普及のためのワークショップを行った。物品寄付において予算と運搬の問題から、現地スタッフ作製のアクセサリや日本から持参した洋服などをフリーマーケットで販売し、その収益で歯磨剤を購入した。

【結果および考察】

施設利用者への保健指導実施は現地スタッフのみで実施可能となり、昨年以上に研修活動計画立案などを自主的に勤務時間外にまで行った。

昨年、名前を記載した歯ブラシを現地スタッフが保管し、古い物と交換するために定期的に訪問する方法に変更したところ、職員と現地スタッフの顔の見える活動となり職員との間に信頼関係が生まれていた。しかし、歯ブラシの個人使用の定着

は難しく本年は個人の歯ブラシ立てを現地スタッフとともに作製した。材料購入から現地で行うことで現地スタッフの訪問時に歯ブラシの使用状況確認および歯ブラシ立ての修理が可能であると考えられた。ワークショップ準備では内容検討から現地スタッフが積極的に参加した。その準備過程で障害者歯科医療に関する知識や考え方を共有することができ、現地スタッフが演者を勤めた。終了後に現地スタッフから自信になった、職員から現地スタッフに安心して相談できることが解ったとの意見が得られた。

本隊に依頼された病院スタッフを対象の障害者歯科医療に関する教育講演の演者に現地スタッフを推薦し共同講演とした。本活動に参加していない病院スタッフも現地スタッフが活動を通して専門的知識を習得していること、障害児・者は他の住民と同様に歯科保健活動の対象であるということを知ることにつながった様子であった。講演後、トンガの障害児・者に継続した健康支援を行う方法について現地スタッフと病院スタッフとの間で長時間にわたる討論が行われた。

【結論】

国際保健活動には現地の協力が不可欠である。活動の継続によって活動に対して受身であった現地スタッフが熱心に活動計画立案から様々な意見を伝えてくれ、行動に移してくれるようになったことで活動が本隊中心型から協力型・自立型へと幅を広げている。今後は自立型となった際にどのように本隊が支援していくかを検討したい。

発表者の連絡先：

803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1

九州歯科大学学生体制御機能学講座 摂食機能リハビリテーション学分野

TEL&FAX：093-285-3074

E-mail:r09endo@fa.kyu-dent.ac.jp